

令和3年6月1日
資料提供

問い合わせ先
環境生活総務課 環境計画班
田中、瀬谷（内線 2674）
（直通）073-441-2674

（仮称）中紀第二ウィンドファームに係る環境影響評価準備書について、和歌山県環境影響評価審査会（現地視察）を開催します

【審査会概要】

- 1 日 時：令和3年6月4日（金） 12:30～16:30
- 2 内 容：現地視察（集合場所 道の駅しらまの里）
 - ・ 12:30 道の駅しらまの里集合 その場で委員への事前説明を実施
 - ・ 12:45～16:15 車で事業実施区域に移動し、現地視察を実施
 - ・ 16:30 頃 道の駅しらまの里にて解散予定

※天候等の状況により、予定・時間等が変更となる場合があります。

■報道取材等について

- ・ 現地視察への同行は可能です。（視察の妨げにならないようお願いします。）

【事業の概要】

事業の名称	（仮称）中紀第二ウィンドファーム事業
事業者	コスモエコパワー株式会社 代表取締役社長 野地 雅禎 東京都品川区大崎一丁目6番1号 TOC大崎ビルディング
事業の内容	風力（陸上）
事業実施想定区域の位置	有田川町（金屋地域）、日高川町（旧中津村、旧美山村地域）に接する白馬山脈の行政界付近
事業の規模	風力発電所出力： 最大総出力 50,200kW （出力制限を行い、最大総出力を 50,200kW に調整する。） 風力発電機の基数： 4,300kW 級を 12 基設置

（参考1）環境影響評価（環境アセスメント）制度について

環境影響評価制度は、法令で定める大規模事業を行うに当たり、事業が及ぼす環境影響を事業者自らが調査、予測、評価し、その結果を公表して住民、地方公共団体などから意見を聴き、それらを反映して環境影響の回避・低減を図る制度です。

環境影響評価法の手続きは、大きく分けて配慮書、方法書、準備書、評価書、報告書の5段階があり、各図書の内容は次のとおりです。

図書	内容
配慮書	事業の位置・規模等の検討段階において、環境保全のために適正な配慮をしなければならない事項について検討を行い、その結果をまとめた図書
方法書【今回】	どのような項目について、どのような方法で環境アセスメントを実施していくのかという計画を示したもの
事業者による調査・予測・評価（以下、「調査等」という。）の実施	
準備書	調査等を実施した結果を示し、環境の保全に関する事業者自らの考え方を取りまとめたもの
評価書	事業者が準備書に対する環境保全の見地からの意見を有する者、都道府県知事等からの意見の内容について検討し、必要に応じて準備書の内容を修正したもの
個別法の許認可等での審査・事業の実施	
報告書	工事中に実施した事後調査やそれにより判明した環境状況に応じて講ずる環境保全対策、重要な環境に対して行う効果の不確実な環境保全対策の状況について、工事終了後にまとめたもの

（参考2）和歌山県環境影響評価審査会

環境影響評価において、事業者が各段階で作成した図書について、知事が意見を述べるに当たり、専門的な見地から学識者の意見を聴くため設置（根拠：和歌山県環境影響評価条例第36条）

氏名	役職名等	専門分野
入野 俊夫	和歌山大学システム工学部教授	騒音・振動
岩井 珠恵	ビジュアルデザイナー	景観
内田 紘臣	(株)串本海中公園センター名誉館長	海生生物
梅本 信也	京都大学フィールド科学教育研究センター里域生態系部門紀伊大島実験所所長・准教授	植物
江種 伸之	和歌山大学システム工学部教授	水質・底質・土壌・地下水
岡田 和久	和歌山県自然博物館副主査	森林保全
此松 昌彦	和歌山大学教育学部教授	地形・地質
竹中 規訓	大阪府立大学大学院 人間社会システム科学研究科教授	環境化学（大気化学）
谷 奈々	(一財)和歌山社会経済研究所研究委員	文化振興・歴史文化産業遺産の保存と活用
津村真由美	(公財)日本野鳥の会和歌山県支部幹事	鳥類
(会長) 濱田 學昭	元和歌山大学システム工学部教授	総括・都市計画
細田 徹治	和歌山県自然環境研究会会長	ほ乳類
的場 績	元和歌山県立自然博物館副館長	昆虫
(副会長) 吉田 登	和歌山大学システム工学部教授	温室効果ガス・廃棄物